

# 「広島観光」の可能性— 原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのか



## <メンバー>

- ・学部生：井上保奈海、片沼来夢  
趙子昊、井上慶太郎、野上隆之介
- ・大学院生：池内晋史
- ・指導教員：桐谷 多恵子、今村康子、巴特尔

# 発表内容

1. 研究背景と問題意識
2. 研究目的・方法論
3. 先行研究のレビュー
4. 専門家への意見聴取
5. 広島ピースツーリズムの現状
6. 世界の博物館調査
7. 今後の計画（広島現地調査など）
8. 参考文献

# 1. 研究背景・問題意識

## 研究背景

ロシアによるウクライナ侵攻、米中対立、台湾有事、北朝鮮による核およびミサイル開発、核保有国と非核保有国との分断などの混沌とした世界情勢

→唯一の被爆国である日本を今後担う次世代に、歴史を正しく伝承していくために、これからの日本が果たすべき役割とは何か？若い世代を中心に原爆・戦争・平和をテーマとした広島観光の可能性はあるのか。

## 問題意識

- ・「核軍縮に関するG7首脳広島ビジョン」の理想と現実との乖離
- 将来的な核廃絶を目標としつつ、核保有が前提で安全保障を行う世界各国の核保有国との関係性と平和維持のバランス
- ・被爆体験者の数が少なくなっている。
- 次世代に戦前・戦中・戦後の歴史を事実として伝える伝承者が育っていない。
- ・国連の「平和の文化に関する行動指針」に基づく行動計画が具体化されていない。
- 核保有国と非核保有国との分断の解消が、恒久的な世界平和を考えるきっかけに繋がる。

## 2. 研究目的・方法論

### 研究目的

本研究では、現在（私たちが）原爆・戦争・平和をテーマとして広島観光を実際に行い、その経験を分析することで、広島観光の可能性を探る。このためには、第二次世界大戦や広島への原爆投下および戦後の広島復興の歴史をたどりながら、平和都市を標榜する広島が世界及び日本人に対して何を語っているのか、どのようなメッセージを伝えようとしているのか、といった問題関心をピースツーリズムの観点から広島の魅力や存在意義を明らかにしたい。同時に、如何にしてダークな戦争や原爆のイメージを払拭しつつ、正しい歴史認識を、来訪者に植え付ける仕掛けを観光のコンテンツに盛り込めるのか、検討したい。

なお、9月に行う広島現地調査が本研究の大きな部分を占めるため、同調査を有意義に行うための準備として本日の報告を位置づけている。

### 研究方法：

文献調査とフィールドワーク、関係者へのヒアリング調査、実地調査

具体的進め方としては、①広島観光の現状把握（広島県市の取り組み、国地域別観光客数の推移、観光地など）②広島観光の課題と要因分析③新たな提案に向けた課題④観光プランの提起

### 3. 先行研究のレビュー（1）：ダークツーリズムについて（井出2021）

#### ダークツーリズムの定義

- ・ 1990年代にイギリスで生まれた新しい観光の概念
- ・ 「戦争や災害などの悲劇の記憶を巡る旅」を指す。
- ・ 日本では福島第一原発の事故を受けて、思想家である東浩紀氏がその跡地を観光地化しようとした「福島第一原発観光地化計画」の発表後、急速に一般化していった。
- ・ ダークツーリズムが「被災地を旅すること」と誤解されているが、戦争や災害だけでなく、近年は「など」の部分が增加されている
- ・ 「など」とは、環境破壊、性的搾取、労働問題、病気・犯罪に関連した場所をはじめとして、人類のネガティブな記憶に関係する場所は、全て潜在的にダークツーリズムとなる。

→結論として、将来に残す「普遍的価値」としては戦争で起こった絶対悪という教訓をも含む意味合いを含んでいる方が有益であることで、観光振興が目的ではない点をすみ分けて考えることで、一般的な観光ツーリズムではないことを理解しなければならない。

### 3. 先行研究のレビュー (2) 広島修学旅行と被爆者(桐谷2023)

#### 1 桐谷論文の課題設定

- ・ 被爆後の広島と観光を捉える際、特徴的な実践としての「広島修学旅行」
- ・ 「広島修学旅行」により語り始めた被爆者の存在

⇒その特徴を検討

#### 2 広島観光の歴史（広島修学旅行までの振り返り）

- ・ 戦前：目玉の一つとしての日清戦争の「聖跡」観光
- ・ 戦後：「軍都」から「平和都市」への転換

桐谷多恵子「広島の観光における被爆者証言活動の意味：切明千枝子さんの就学旅行者へ対応経験を中心に」『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』、第15号、2023年)

### 3. 先行研究のレビュー（2）：広島修学旅行と被爆者(桐谷2023)

#### 3 「広島修学旅行」と被爆者

- 修学旅行生徒が広島を訪れた際、被爆者の証言を聴くというスタイル。
  - 背景には「広島修学旅行」の開拓者である中学教員の江口保氏と彼に応えた被爆者たちの努力。
  - 語りたくない気持ちと語ろうとする意志とのあいだの揺れ
  - 聞き手を受け入れろとうとする態度＝「ホスピタリティ」（歓待）
  - ⇒聞き手がいて成立させる関係性。聞き手もまた重要な構成要素。

桐谷多恵子「広島の観光における被爆者証言活動の意味：切明千枝子さんの就学旅行者へ対応経験を中心に」『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』、第15号、2023年)

### 3. 先行研究のレビュー（3）：広島「復興」について（桐谷2020）

⇒本稿（桐谷2020）は、**被爆者にとっての「復興」**とは何かをとらえるために被爆者である切明千枝子氏の個人史が軸になっている。

・研究者と被爆者がとらえる「復興」には**乖離**が生じている。

→都市計画史としての広島「復興」が生活当事者（被爆者）の復興と重なるものではない。

⇒復興を議論するうえで**被爆者の思想**を踏まえた復興論が課題であるとまとめている。

桐谷多恵子「誰の視点から復興を描くのか—被爆者が語る〈私たちの復興〉から広島「復興」を捉え返す試み—」（日本災害復興学会論文集 No.15, 2020年） 桐谷多恵子



### 3. 先行研究のレビュー（4）：平和博物館と戦争体験の継承（福島2021）

#### ■平和博物館の定義

①平和学の平和理念の紹介・実践

②戦争体験（とくに満州事変～日中戦争～太平洋戦争までの15年戦争）の継承  
の2つが主要課題

→うち②の「戦争体験の継承」が主要課題

#### ■戦争体験の継承の課題の開始時期と悩み

・1960年代後半

→戦後生まれの教員が「歴史」や「国語」において戦争体験を語らねばならなくなったこと

→戦後日本において「平和教育」が理論化・組織化され再始動した時期（対象はこどもにまでに拡大する）

出所：福島在行「平和博物館は何を目指してきたか」、蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編『なぜ戦争体験を継承するのか』、みずき書林、2021年、248～267頁

### 3. 先行研究のレビュー（4）：平和博物館と戦争体験の継承（福島2021）

#### ■日本の平和博物館の歴史的概観

前史① 広島平和記念資料館等

前史② 空襲記録運動と平和のための戦争展運動

→上記前史を背景に、**1980年代から、平和博物館の層的成立へ**

#### ■日本の平和博物館の3つの特徴的役割

①記憶し想起する場

②（対抗的）情報発信の場

→社会的な「継承」のために重要な役割としての場であり、**体験者から非体験者への継承が可能な時代である前提として機能する**

③痕跡的なマテリアル（物質的／素材的資料）のアーカイブとしての場

→**「継承」課題を働きかけられた者が、そこから自覚的に活動を展開しようとするとき、その「素材」を得るための場として機能する**

被爆者なき後の「継承」を課題として捉えた場合、

平和博物館に足を踏み入れた非体験者が、そこから何を感じ、何を伝えることができるかを考えるきっかけとして場のみならず、アーカイブ機能自体が再生産され続ける必要がある

## 4. 専門家への意見聴取～福島在行氏（広島在住の日本史・平和博物館研究の専門家）

### <広島に行く準備として必要なこと>

- ・ 広島の中で、どんなことを学びたいか
  - ・ 自ら調べたことをもとにどんな人と会って話を聞きたいのか
- どこに関心があるのか

### <私たちを受け入れる人たちは・・・>

「復興」を知ってほしい人と、「本当に復興したと言える？」と考える人  
過去の原爆のことを忘れないことに力点を置く人と、いまの世界を考えてほしい人

### <どのように伝えるのか>

- ・ 相手と内容は？ ・ どんな媒体を使うのか
- 自分が何を知っていて、知らないかを知るチャンス
- ・ 実感と知識の両面 → 本や教科書で学べるのではなく知識以外の部分を学ぶ



「原爆ドームに行く目的は何か」 「原爆について学ぶ意味は何か」

# 5. 広島ピースツーリズムの現状

## (1) 広島市の平和への取り組み

### 広島市の平和への取り組みにおける基本方針

- I 戦後広島市の復興
- II 核兵器廃絶を目指した取り組み
- III 平和意識の醸成
- IV 被爆体験の継承・伝承

#### I 戦後広島市の復興

- ・ 広島平和記念都市建設法の施行

昭和24年（1949年）8月6日に、憲法第95条に基づく特別法により施行

→「恒久の平和を誠実に実現しようとする理想の象徴とし、広島市を平和記念都市として建設することを目的とする」（第1条）

→本法律の施行後に、広島市の都市づくりの方向性（平和記念都市としての役割）が決定

#### II 核兵器廃絶を目指した取り組み

- ・ 国内外の世論の醸成
- ・ 平和主張会議の充実強化
- ・ 平和宣言の作成・発信

### Ⅲ 平和意識の醸成

- ・ **こども平和の集い**
- ・ 中・高校生ピースクラブ
- ・ 若者による平和の誓いの集い
- ・ ヒロシマ・ピースフォーラム
- ・ **折り鶴再生紙によるピースメッセージ事業**
- ・ 平和文化月間におけるイベントの開催

### Ⅳ 被爆体験の継承・伝承

- ・ 被爆建物等保存・継承の推進
- ・ 広島平和記念資料館収蔵資料の保存措置の強化
- ・ 被爆資料の収集
- ・ **平和学習講座**
- ・ ユースピースボランティア事業
- ・ **修学旅行生への被爆体験講話**
- ・ **被爆体験伝承者による伝承講話**
- ・ 国際平和拠点ひろしま構想の推進

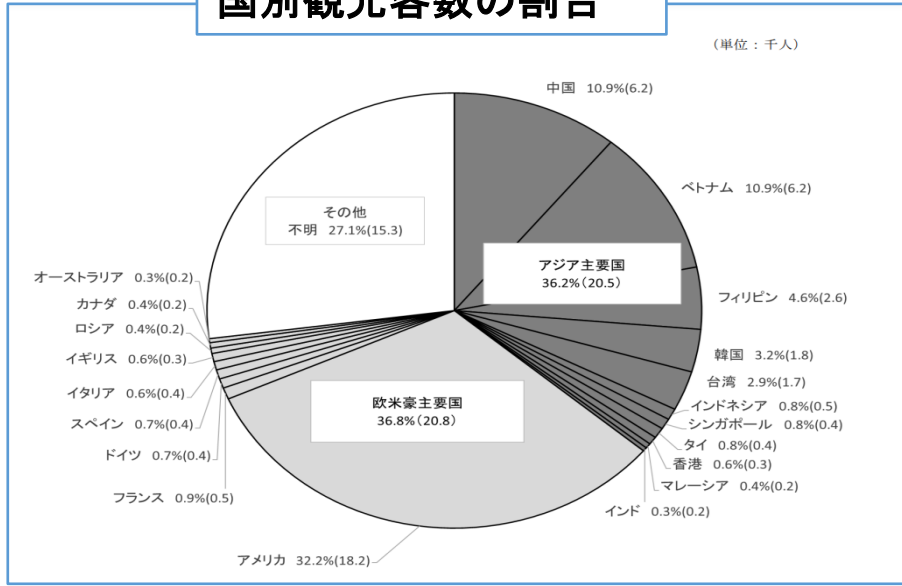
出所：広島市公式ウェブサイト「広島の平和への取り組み」  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/site/peaceinitiatives/>

目標	取組	課題	今後の解決策
地域の特色を生かした魅力ある観光地づくりによる新たな経済成長	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼県内周遊のモデルコース（原爆ドーム・宮島～呉、瀬戸内ひろしま全域）への誘客推進</li> <li>▼民間事業者との連携による事業推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼2つの世界遺産に続く集客力の高い観光資源が育っていない</li> <li>▼都市型観光の比率が高い</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼広島ならではの歴史・文化・自然を「テーマ」にした観光の推進</li> <li>▼「ひろしま」「瀬戸内」の2つのブランド資源を生かした観光振興による県内経済の成長</li> </ul>
観光客数の増加・観光消費単価の上昇	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼県内周遊</li> <li>▼広域周遊</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼民間事業者が中心となった観光プロダクトの取組が不十分</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼国内観光客の認知度を向上させるためのブランディング</li> <li>▼民間企業のプロダクト開発支援</li> </ul>
国内外観光客の受け入れ体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼道の駅・海の駅の整備</li> <li>▼観光案内の多言語対応</li> <li>▼県内おもてなし人材の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼国内観光客の伸び悩み</li> <li>▼国外観光客の県内での宿泊、周遊滞在にはつながっていない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼年間を通じた誘客につなげるための観光プロダクトの開発</li> <li>▼観光人材の育成</li> </ul>
国際観光の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼海外に向けた情報発信</li> <li>▼外国人を魅了する観光地づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼欧米に比べアジアからの来訪者が少ない</li> <li>▼多様なニーズに応えるためのマーケティング力不足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>▼特定国（欧米・アジア）をターゲットとしたプロモーションの実施</li> <li>▼外国人観光客がもとめる旅行商品の提供</li> </ul>

出所：広島県商工労働局観光課『観光立県推進基本計画』をもとに筆者作成

# 5. 広島ピースツーリズムの現状 (2) 国内外訪問客数の推移

国別観光客数の割合



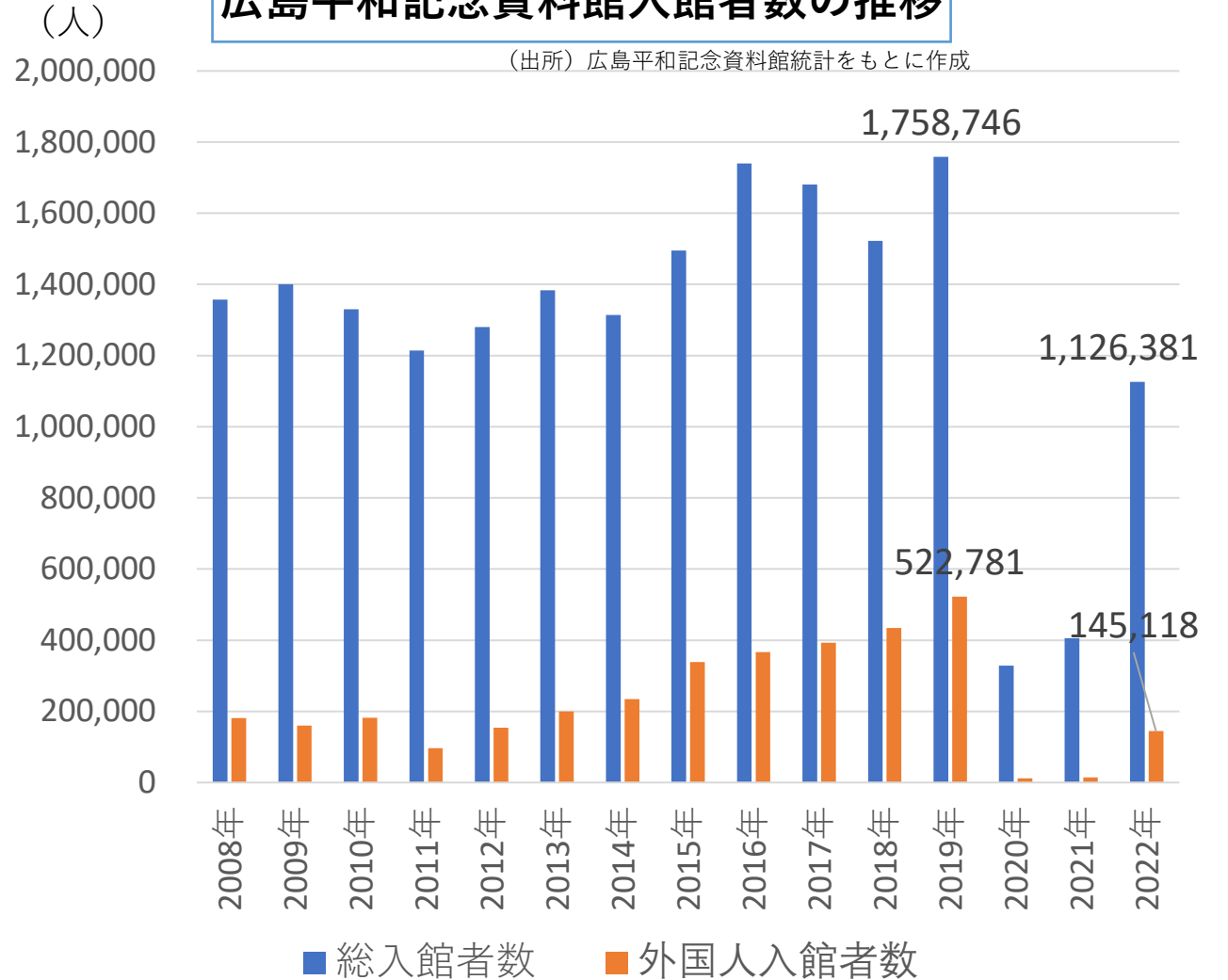
出所：広島県「令和3[2021]年広島県観光客数の動向」

広島市訪問客数の推移

区分	平成30年 (2018年)	令和元年 (2019年)	令和2年 (2020年)	令和3年 (2021年)	令和4年 (2022年)	前年との比較	
						人数	増減率 (%)
入込観光客	1,336万2千人	1,427万4千人	854万9千人	755万3千人	925万人	169万7千人	22.5%
一般観光客	1,125万4千人	1,209万7千人	825万人	736万6千人	883万7千人	147万1千人	20.0%
修学旅行生等	32万6千人	33万人	9万2千人	16万人	32万3千人	16万3千人	101.9%
外国人観光客	178万2千人	184万7千人	20万7千人	2万7千人	9万人	6万3千人	233.3%

出所：経済観光局観光政策部「令和4年(2022年)広島市観光客数について」、2023年7月1日

広島平和記念資料館入館者数の推移



## 5. 広島ピースツーリズムの現状

### (3) 日本と海外との認識の違い

#### ①中国の場合

2000年版歴史教科書『中国近現代史』：31ページ

2003年版歴史教科書『中国近現代史』：19ページ

2004年版歴史教科書『歴史必修』：10ページ

2007年版歴史教科書『歴史選修』：4ページ➤明治維新を成功例として高評価

※広島・長崎への原爆投下は事実のみに留まり論評はしていない。

※日本で言われている「反日教育」は行われていない。

※「高考」（日本の大学入学共通テスト）では、過去3年間は日中戦争に関する出題なし。

※戦争の記憶：K君のご親戚の実体験



## ②韓国の場合

広島への原爆投下から60年後の韓国の新聞「東亜日報」

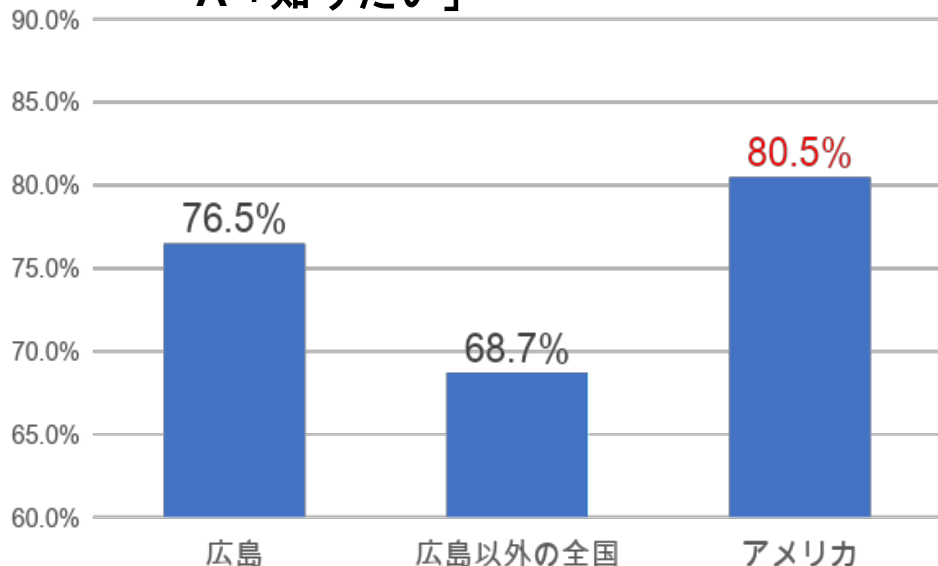
- ・日本が被爆国という被害者であることを強調。

	広島	長崎
被爆者	5万人	2万人
生存者	2万人	1万人

- ・日本は戦時中、韓国に対して行った侵略行為を直視せず、忘れようとしている。
- ・1945年8月の原爆投下当時、広島・長崎の市に十数万人程度の韓国人が暮らしていた。→広島と長崎合わせて約7万人が被害に遭い、2万3千人が韓国に帰国。
- ・歴史的事実の評価も、受けてきた教育も、マスコミ報道の内容も違う。  
→原爆に対する意識も違う。互いに事実を知り、考えていくことが重要。

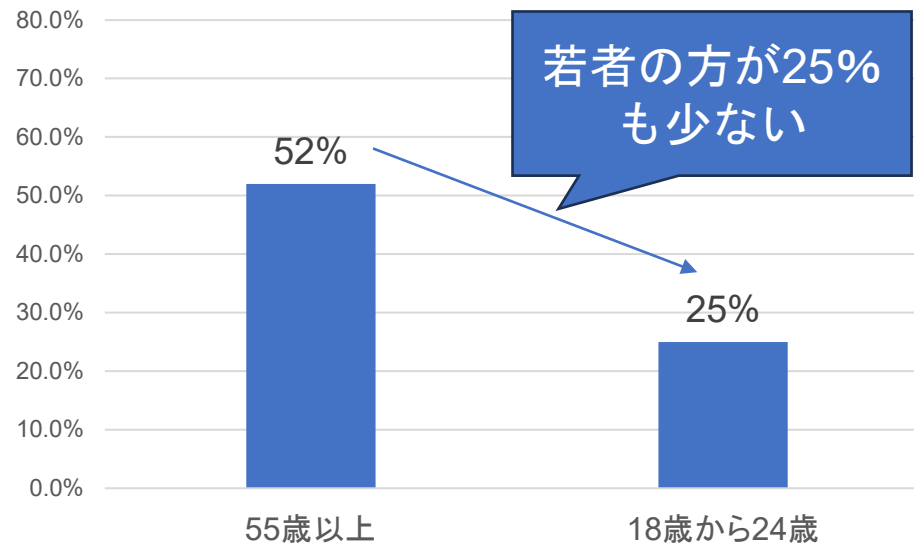
### ③ 米国の場合

Q「原爆についてもっと知りたいと思うか」  
A「知りたい」



(2020年にNHK広島放送が「平和に関する意識調査」として18歳から34歳を対象にインターネットでアンケートを行ったもの)

Q「原爆投下は正しい判断だったか」  
A「正しかった」



(調査会社「YouGov」が2020年8月6日から7日に行った世論調査)

原爆投下によって戦争を終えることができたという認識



自国が原爆を投下した結果、何が起きたのか、本当のことが知りたいなど原爆投下に対する認識の変化がみられる

米国の教科書は原爆の決定をめぐる賛成・反対の立場を学生に伝えようとしている

## 6. 世界の博物館の調査～日本と海外との比較

	日本	ドイツ	アメリカ
価値観	戦争によって命を失いたくない。 国家の意思が <b>保守的意思</b> 。 世界中に「平和」の共感を持ちたい。	国家・戦争を <b>美化しない</b> 。 軍事をタブーとして扱わず敗戦の記憶を残している。	軍事力の誇示と <b>愛国心の育成</b> 世界紛争の教訓を受け入れる様に設計
展示	焼け焦げた衣服や弁当箱被爆者の遺品や被爆の惨状を示す写真・資料	ドイツが実際使っていた武器や戦車、ナポレオンに対する諸国民戦争やドイツ統一戦争の資料	軍用車両、ノルマンディー上陸作戦の写真、戦没者の遺品。勝利に導いた製造業の歩み。
目的	世界に核兵器の <b>恐ろしさ・非人道性</b> を訴える。 「平和」についてよく知り、考えてもらう。	包括的な哲学的、倫理的、歴史的問題が議論される、 <b>歴史的判断</b> の強化。	あらゆる世代が <b>自由の代償</b> を理解し、そこからインスピレーションを得る力を強化。
課題	加害・戦争について説明するための総括ができていない。 <b>国立の戦争博物館</b> がない。	他国との関係性を示す展示品・資料が少ない。 <b>ベルリンの歴史的な中心部</b> に位置する内容が多い。	<b>世界に対して</b> 核兵器に対する非人道性・恐怖心を教えようという意思が薄い。



## 6. 世界の博物館調査：米国立航空宇宙博物館

荻野博司先生よりご提供、2015年8月撮影



エノラ・ゲイ (ENOLA GAY)



水上機：「晴嵐」



B29に突入した「桜花」



## Boeing B-29 Superfortress Enola Gay

106

Boeing's B-29 Superfortress was the most sophisticated propeller-driven bomber of World War II, and the first bomber to house its crew in pressurized compartments. Although designed to fight in the European theater, the B-29 found its niche on the other side of the globe. In the Pacific, B-29s delivered a variety of aerial weapons: conventional bombs, incendiary bombs, mines, and two nuclear weapons.

On August 6, 1945, this Martin-built B-29-45-MO dropped the first atomic weapon used in combat on Hiroshima, Japan. Three days later, *Bockscar* (on display at the U.S. Air Force Museum near Dayton, Ohio) dropped a second atomic bomb on Nagasaki, Japan. *Enola Gay* flew as the advance weather reconnaissance aircraft that day. A third B-29, *The Great Artiste*, flew as an observation aircraft on both missions.

*Transferred from the U.S. Air Force*

*Funding in support of the completion of the restoration of the Enola Gay generously provided by The Alan L. Gray Family*



Wingspan:	43 m (141 ft 3 in)
Length:	30.2 m (99 ft)
Height:	9 m (27 ft 9 in)
Weight, empty:	32,580 kg (71,826 lb)
Weight, gross:	63,504 kg (140,000 lb)
Top speed:	546 km/h (339 mph)
Engines:	4 Wright R-3350-57 Cyclone turbo-supercharged radials, 2,200 hp
Crew:	12 (Hiroshima mission)
Armament:	two .50 caliber machine guns
Ordnance:	"Little Boy" atomic bomb
Manufacturer:	Martin Co., Omaha, Nebr., 1945

◇ 説明文（2015年当時）：被害状況（死傷者）について一切触れていない。

◇ 国立航空宇宙博物館は、2025年に原爆投下後の広島と長崎の街の写真のほか、被爆者の遺品などを展示する計画。また、科学者による原爆投下への反対など、当時のアメリカ国内の原爆をめぐる議論についても紹介するとみられる（日テレNEWS 2023/8/8付）。

## 7. 今後の研究計画

- 観光の行先としての広島
  - 広島を観光の対象として選ぶことの意味を考察していく。
    - ☆なぜ人々は広島へ向かうのか？（なんで広島に行きたいと思うのか？）
  - 広島の復興の歴史に対して、希望を抱く外国人観光客の存在
  - 広島の歴史・文化・自然・産業など観光資源のポテンシャル
- 若者がどうしたら広島へいくのか？  
広島観光はある意味で敷居が高い。→この敷居を下げることはできるのか？  
9月に広島現地調査の結果を分析してから論文の内容をしっかりと固めていく。
- 現地調査では、広島平和記念資料館の見学、学芸員の方へのインタビュー、被爆者の被爆体験を実際に聞き、被爆者なき後の広島観光を考察するために「伝承者」などの被爆体験の継承を行っている方へのインタビュー。VR体験、等。

## 7. 今後の研究計画～広島フィールドワーク（9/10-12 行程表）

日付	時間	実施内容
9/10	14:00	広島平和記念資料館に集合
	14:00-	資料館見学後→福島在行氏と意見交換
9/11	～11:00	自由行動
	11:00-12:00	伝承者との交流 @平和記念資料館
	14:00-16:00	被爆者・切明千枝子氏に対するヒアリング
9/12	午前	チームに分かれて、フィールドワーク
	17:00	現地解散

# 7. 今後の研究計画（論文の目次案）

2023年度サービスエンターテイメント班

論文仮題：「広島観光」の可能性

原爆・戦争・平和を学ぶ旅をどう組み立てるのか

## 目次

### 序論

1. 論文の目的（関心の所在）
2. 先行研究について（広島観光、広島修学旅行、ダークツーリズム）
3. 問題の提起
4. 論文の構成

### 第1部 国際情勢における広島

#### 第1章 第2次世界大戦と広島

- 第1節 「大東亜共栄圏」とアジア諸国への侵略
- 第2節 アメリカの原爆投下事情
- 第3節 原爆の被害

#### 第2章 戦後の広島

- 第1節 敗戦後における占領地広島——原爆被害の検閲とABC——
- 第2節 戦後の広島復興

### 第2部 広島市の「観光」

#### 第1章 戦前の広島観光

- 第1節 戦前の広島観光の歴史概観（広島が広島をどう語ってきたか？被爆までの歴史）
- 第2節 戦前の広島観光——軍部広島と聖蹟巡り——

#### 第2章 戦後の広島観光

- 第1節 戦後の広島観光の歴史概観（原爆被災史などで、広島が広島をどう語ってきたか？→被爆者、戦後史）
- 第2節 戦後の広島観光——「平和都市」広島——（広島は観光客に何を伝えようとしてきたか）

#### 第3章 戦後広島観光と被爆者

- 第1節 被爆者の証言活動の歴史
- 第2節 広島への修学旅行生の年代別推移と分析

#### 第4章 広島観光と外国人観光客

#### 第1節 広島への外国人観光客の年代別推移と分析

#### 第2節 外国人観光客の感想（広島平和記念資料館の訪問ノートから）

### 第3部 広島現地調査から新たに得た視座

#### 第1章 広島観光のみどころについて（どこをまわるべき？広島平和記念資料館と平和公園？宮島？）

- 第1節 被爆者・切明千枝子さんの証言を聞いて
- 第2節 切明千枝子さんの証言内容と分析

#### 第2章 切明千枝子さんの伝承者の証言を聞いて

- 第1節 切明さんの伝承者の講和内容と分析

#### 第3章 メンバーそれぞれの現地調査の感想と考察

#### 第4章 被爆者なき後の広島観光への提案

- 第1節 被爆者が果たしてきた広島観光における位置（貢献）
- 第2節 被爆者なき後の広島観光の問題点と解決策について

### 第4部 広島観光の未来について

#### 第1章 被爆体験のない私たちは「ヒロシマ」を語る事ができるのか

- 第1節 被爆体験の継承について

#### 第2章 広島観光の提案

- 第1節 ダークツーリズムと広島観光（※ここは、先行研究に入る？）
- 第2節 ビースツーリズムと広島観光（※ここは、広島が広島をどう語ってきたか？の箇所になるか？）
- 第3節 私たちの提案する広島観光

### 結語

1. 過去・現在・未来における広島観光
2. 総括

### 参考史料・文献

### 付録

以上



## 8. 参考文献（ウェブサイトを含む）

1. 寺島実郎『ひとはなぜ戦争をするのか』、岩波書店、2018年
2. 桐谷多恵子「広島観光における被爆者証言活動の意味：切明千枝子さんの就学旅行者へ対応経験を中心に」『多摩大学グローバルスタディーズ学部紀要』、第15号、2023年）
3. 桐谷多恵子「誰の視点から復興を描くのか—被爆者が語る〈私たちの復興〉から広島の「復興」を捉え返す試み—」『日本災害復興学会論文集于』NO.15（Special Issue）2020年9月
4. 福島在行「平和博物館は何を目指してきたか」、蘭信三・小倉康嗣・今野日出晴編『なぜ戦争体験を継承するのか』みずき書林、2021年、248～267頁
5. 広島市来訪観光客アンケート調査結果  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/uploaded/attachment/137645.pdf>
6. マイナビトラベル（学生旅行白書）  
[https://www.mynavi.jp/news/2018/06/post\\_17388.html](https://www.mynavi.jp/news/2018/06/post_17388.html)
7. 広島市への海外からの賓客訪問実績 - 広島市公式ホームページ | 国際平和文化都市  
<https://www.city.hiroshima.lg.jp/soshiki/49/10543.html>
8. 広島平和記念資料館 | 資料館について | 入館者数について  
[https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page\\_id=136](https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=136)
9. 平和文化 No.201\_10 海外からの来訪者が発信するメッセージ  
<https://www.pcf.city.hiroshima.jp/hpcf/heiwabunka/pcj201/Japanese/10J.html>
10. 原爆の悲惨さと平和への想いを世界に伝える、HIROSHIMAで生まれたピースツーリズム | やまごころ.jp  
<https://yamatogokoro.jp/report/32556/>
11. インバウンド人気観光スポットランキング3位「広島平和記念資料館」の人気の理由・インバウンド対策とは | 訪日ラボ  
<https://honichi.com/ranking/touristattraction/hiroshimaheiwakinenshiryokan/>

12. <https://youtu.be/7DVJ2Ey6-UE>

13. 原爆資料館ドキュメンタリー

<https://www.youtube.com/watch?v=m9hOYpgleKE>

14. 「あれは77年前の私です」

<https://www.youtube.com/watch?v=lgrF5-2eNLA>

15. 平和公園に足を運ぶ外国人環境客に関する記事

<https://www.hiroshimapeacemedia.jp/?p=130883&fbclid=IwAR2dNjBAnviqZUDph11DqIX5IMx85vXiFg4Or0YBJHmjINk3VTQaGywddAk>

16. 平和記念資料館の入館者数

[https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page\\_id=136&fbclid=IwAR3RMqzWDLVN5tERVrmFHnSB3RUTRTcUZGNUPTPcO22Nov3civguxcS6G2E](https://hpmmuseum.jp/modules/info/index.php?action=PageView&page_id=136&fbclid=IwAR3RMqzWDLVN5tERVrmFHnSB3RUTRTcUZGNUPTPcO22Nov3civguxcS6G2E)

17. 23年4月時点の原爆資料館の来館者数前年比大幅増

<https://news.yahoo.co.jp/articles/197f2481f71656f43574d71d9b027ca98a04b174?fbclid=IwAR29yaTDBbBz2mZ58WkRWmlhE-8GUwyar3HzkmJkXfrgO4HDmmibd2ZDfnQ>

18. 「政治マガジン」アメリカ人の8割以上「原爆についてもっと知りたい」

<https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/42800.html>

19. 「分断された記憶：歴史教科書とアジア戦争」

<https://www.nippon.com/ja/in-depth/a00703/>

20. 公益財団法人 放射線影響研究所 <https://www.rerf.or.jp/glossary/abcc/>

21. 放射線による晩発的影響の過小評価 中川保雄

[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhsj/26/163/26\\_129/\\_pdf](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jhsj/26/163/26_129/_pdf)

22. 広島大学平和科学研究センター. 韓国人原爆被害者の研究の過程とその課題. 2012

[file:///C:/Users/avanc/Downloads/hps\\_34\\_161.pdf](file:///C:/Users/avanc/Downloads/hps_34_161.pdf)

23. 碓井真史. 原爆に対する日米韓の意識：韓国「防弾少年団」原爆Tシャツの問題から2018年11月10日

<https://news.yahoo.co.jp/byline/usuimafumi/20181110-00103609>

24. 橋場紀子. 韓国人被爆者の「語り」から見た「被爆体験」の特徴2022

[file:///C:/Users/avanc/Downloads/JGHSS8\\_205.pdf](file:///C:/Users/avanc/Downloads/JGHSS8_205.pdf)

25. 井上泰浩. 世界は「広島をどう報じたのか」2006

<http://harp.lib.hiroshima-u.ac.jp/hiroshima-cu/file/1434/20140119135718/HJIS12-103.pdf>

26. 「日テレNEWS【アメリカ】広島・長崎「原爆投下」...アメリカの若者“意識”に変化が」

<https://www.youtube.com/watch?v=efUOyEjPZa0>

27. 「japan-guide.com」 <https://www.japan-guide.com/e/e2160.html>

28. 「JAL Guide to Japan」 <https://www.jal.co.jp/ar/en/guide-to-japan/>

29. 「おのナビ」 <https://www.ononavi.jp/>

30. Dive! Hiroshima 広島公式観光サイト 令和3[2021]年 広島県観光客数の動向

<https://dive-hiroshima.com/business/news/news-11473/>

31. 尾道市 令和4年（2022年）版 統計おのみち 観光  
<https://www.city.onomichi.hiroshima.jp/soshiki/2/18436.html>
32. 尾道観光協会 おのなび <https://www.ononavi.jp/>
33. 一休. com ここは押さえておきたい！尾道のおすすめ観光スポット25選  
<https://www.ikyuu.com/kankou/arealist8402/>
34. 米国ホロコースト記念博物館 ホームページ <https://www.usmmm.org/>
35. National Air and Space Museum (国立航空宇宙博物館) ホームページ <https://airandspace.si.edu/>
36. The National WWII Museum (国立第二次世界大戦博物館) ホームページ <https://www.nationalww2museum.org/>
37. 帝国戦争博物館 ホームページ <https://www.iwm.org.uk/>
38. - NHKすくすく子育てch「戦争のこと 子どもにどう伝える？」2023年6月10日放送  
[https://www.nhk.or.jp/sukusuku/articles/article\\_9206/](https://www.nhk.or.jp/sukusuku/articles/article_9206/)
39. 古市憲寿「戦争博物館から戦争を考える」『既刊政策・経営研究』2014Vol.4  
[https://www.murc.jp/assets/img/pdf/quarterly\\_201404/pdf\\_005.pdf](https://www.murc.jp/assets/img/pdf/quarterly_201404/pdf_005.pdf)
40. 福西加代子「戦争・平和を展示する日本と韓国の博物館に関する比較研究」  
[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2011/0/2011\\_0\\_129/pdf/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jasca/2011/0/2011_0_129/pdf/-char/ja)
41. 井出明『悲劇の世界遺産～ダークツーリズムから見た世界～』、文集新書、2021年

ご清聴、ありがとうございました。